第百十五回　高尾山信徒峰中修行会　十月十三日(土)～十四日(日)

秋冷の高尾山へ一泊し当山独自の滝行をはじめ、月輪観・写仏・法話の聴講等を実践する精神修養の行事として【高尾山信徒峰中修行会】を来たる十月十三日～十四日に開催します。

高尾山に広がる大自然全体を修行道場として、高尾山御本尊・飯縄大権現様に身をまかせ、古来より伝承される修行の方法を実践し、激動の現代社会に生きるご自身の心の波を静めてみませんか？

老若男女を問わず初心者の方も歓迎します。

参加ご希望の方は、ハガキに郵便番号・住所・氏名・年齢・性別・生年月日・電話番号を明記してお送り下さい。（尚、小学生以下の参加は保護者の同伴が必要となります。）

皆様方のご参加をお待ち申し上げます。

＊お電話にての申込みはご遠慮下さい。

＊請書は、締切り後、発送致します。

＊行程の詳細は来月号にて掲載致します。

宛先　〒一九三―八六八六
八王子市高尾町二二七七
高尾山信徒峰中修行会係宛

電話　〇四二・六六一・二一五

FAX　〇四二・六六四・二九九

申し込み締め切り
十月五日(金)

参加費　大人　一万五千円
子供　一万円(小学生以下)
＊保険料含

申込み後、キャンセルの方は、早めに電話連絡を入れて下さい。連絡なき場合は、キャンセル料等がかかる(発生する)場合がございますので、ご了承下さい。

集合場所　高尾山麓不動院
午前九時集合

服装　運動着
運動靴(登山靴可)

持参品
弁当(初日昼食分)
雨具(カッパ、ポンチョ)
洗面用具、タオル、
寝間着、リュックサック
筆記用具
＊お持ちの方は、念珠、錫杖をご持参下さい。

高尾山山内八十八大師巡拝のご案内

多くの方が参拝できますよう左記のように二つのグループに分け、途中(山上十一丁目茶屋前第十七番札所)で合流し、いっしょに巡拝致します。

A、従来通り、不動院から歩く。

B、ケーブルを利用する。

＊ケーブルを利用する場合、代金は自己負担になります。

日程　十月九日(火)

行程　山麓不動院→蛇滝コース→蛇滝→仏舎利塔法楽→本堂(御護摩修行)→坊入(昼食)→下山(一号路)→不動院着(法楽)→解散

参加費　五千円(昼食代、保険料含む)

集合場所　山麓不動院(八時半集合)

申込方法　ハガキに郵便番号、住所、氏名、生年月日、性別、電話番号を明記の上、左記までお申込み下さい。
九月二十八日(金)
〒一九三―八六八六
八王子市高尾町二二七七
大本山高尾山薬王院　八十八大師係
＊電話でのお申込みは承りかねますのでご了承下さい。
＊申し込み締切り後、請け書(行程表・持ち物等)をお送り致します。

おはなし散歩道

おたがいさま

八王子市　池田美絵

数日間続いていた雨がやみ、キツネのクーちゃんが暮らす山にもようやく陽の光が届いた。「ふーっ、気持ちがいい」。もやがかかった木々の間から差し込む光をあびて大きな伸びをした。「そうだ。獲物を隠した場所が大丈夫かどうか見に行かなくちゃ！」。

クーちゃんは山中に穴を掘り、大切な獲物を隠していた。ネズミ、ミミズ、カエル、カタツムリ……。しかも秘密の穴ぐらはいくつかあった。

雨後の山中は、樹木があちこちに倒れ地面はぬかるんでいるけれど、クーちゃんは器用に木々を飛び越えながら駆け出した。しばらく走っていると、数百匹ものアリたちが、大雨によってできてしまった水の流れを前にして立ち往生している。

「アリさんたち、どうかしたの？」。クーちゃんが尋ねると、一匹の働きアリが困り果てた顔で応えた。

「巣を出るときはなかったのですが、巣穴に戻ろうとしたら川ができていて……。私たちの巣穴は川の向こう側にあるのです。食べ物を運ばないと子供たちが死んでしまいます」。キツネにとって、たやすく越せそうな流れでもアリにしてみれば、大きな川に見えるのだとクーちゃんは思った。

「それは、大変です」。クーちゃんはアリさんたちに同情していたが、次の瞬間、ぱっと顔を明るくした。熊笹の大きな葉を数枚摘んでくると、「これを舟の代わりにして向こう岸に渡ったらどうですか？」と提案した。

「わぁ、いい考え！　ありがとう、ありがとう」。アリさんたちは、口々に声をあげた。そして、クーちゃんが用意した熊笹の葉に乗って流れを下っていった。

「よし。今度こそぼくの穴ぐらに行かなくちゃ」。クーちゃんは駆け出した。根本が三つに分かれた大きな杉の木が目印だ。その根本に獲物が隠してある。ところが、その大木が見えてきたところ、クーちゃんはあぜんとした。穴ぐらに行くには人間が作った木の橋を渡っていかなければならない。それが橋は傾き、一部に大きな穴があいていた。大雨のせいだった。しかも橋の下は谷底だから、渡りそこなったらまっさかさま――。くーちゃんは想像しただけで身震いした。

「どうしよう。おなかがすいているし、このまま帰るわけには行かないよ」。くーちゃんは困り果ててひとりごとを言った。

すると、足元にアリさんたちがいることに気がついた。「さっきはありがとうございました。何かお困りですか？」。くーちゃんに話しかける。

くーちゃんはアリさんの出現に驚いていると、アリさんのほうがくーちゃんの困りようを察して「私たちは大勢います」と励ました。そして、次々と網の目のように繋がって橋にあいた穴をうめてしまった。「さあ、渡ってください」。アリさんたちはくーちゃんを促した。アリさんの橋は少しやわらかかったけれど、渡るには十分だった。

「お礼と言ってはなんですが、巣穴の獲物をお持ち帰りください」。くーちゃんは感謝の気持ちでアリさんに申し出た。アリさんたちも喜んで、クーちゃんが捕った獲物を担いで帰ることになった。帰り道ももちろん、くーちゃんはアリさんの橋にお世話になったので、ご心配なく。

（さし絵・小出　茂）